

2023年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年11月9日

上場会社名 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2579 URL <https://www.ccbj-holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) カリン・ドラガン
 問合せ先責任者 (役職名) 財務本部 コントローラーズ (氏名) 石川 達仁 TEL 0800-919-0509
 シニアグループ統括部長
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		事業利益		営業利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	663,825	8.4	5,867	—	6,121	—	3,890	—	3,862	—	5,085	—
2022年12月期第3四半期	612,321	3.9	△11,196	—	△7,053	—	△5,191	—	△5,194	—	△3,147	—

	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益	
	円	銭	円	銭
2023年12月期第3四半期	21.53		21.38	
2022年12月期第3四半期	△28.96		—	

※事業利益は、事業の経常的な業績を計るための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものであります。

(2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分		親会社所有者帰属持分比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	845,609		472,656		472,485		55.9	
2022年12月期	826,737		476,358		476,216		57.6	

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年12月期	—		25.00		—	25.00
2023年12月期	—		25.00		—	—
2023年12月期(予想)					25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		事業利益		営業利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	869,900	7.7	1,500	—	3,200	—	1,500	—	1,500	—	8.36	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	206,268,593株	2022年12月期	206,268,593株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	26,836,166株	2022年12月期	26,928,478株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	179,366,863株	2022年12月期3Q	179,342,725株

(注) 当社は当連結累計期間において、役員報酬BIP信託および株式付与信託ESOP信託を導入しており、当該信託が保有する当社株式を、期末自己株式数および期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで、以下「当第3四半期累計期間」）における国内の清涼飲料市場は、人出回復や経済活動活性化、猛暑等を背景に需要の増加傾向が継続したものの、清涼飲料各社の価格改定実施による需要へのマイナス影響等により、数量ベースで前年同期比1%程度の増加となったものとみられます。また、原材料・資材・エネルギー価格の高騰や円安などが消費行動やビジネスに影響を及ぼすなど、事業環境は引き続き不透明な状況で推移いたしました。

このようななか、当社は、2023年を「利益にこだわる年」と位置づけ、収益性改善に最優先に取り組んでまいりました。営業分野では、収益性改善に向けた最重要施策として、価格改定の着実な実行および改定後の出荷価格の維持に努めてまいりました。最需要期である夏場においても、規律ある営業活動を徹底し、取り組みの効果の最大化を図ってまいりました。また、10月からの大型PETボトル製品等の価格改定に向け、お得意さまとの交渉などの準備を進めてまいりました。さらに、人出回復や猛暑等により増加する需要を取り込むべく、新製品の展開や効率的かつ効果的なマーケティング活動の実施、カスタマーエンゲージメントの強化などに取り組み、販売数量の増加とケース当たり納価の改善による売上収益の成長を図ってまいりました。製造・物流分野では、原材料・資材・エネルギー価格の高騰や円安などの影響を受けるなか、需要増加の機会を販売数量および利益の成長につなげるべく、前年に刷新したS&OP（Sales and Operations Planning）プロセスの安定的な運用や供給ネットワークの改善に取り組み、製品の安定供給および製造・物流トータルでのコストの低減を図ってまいりました。

社会との共創価値に基づくESG目標の実現に向けた活動にも継続して注力してまいりました。水資源保全やPETボトルリサイクルの強化に関し、お得意さまや行政との協業の取り組みを複数開始し、循環型社会形成による環境負荷の低減と協業を通じたビジネス機会の拡大を図ってまいりました。また、ビジネスを通じた地域社会貢献として、地域の活動を支援する自動販売機の展開などにも力を入れてまいりました。さらに、当第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで、以下「当第3四半期」）には、グローバル認知度の高いEcoVadis社のサステナビリティ調査にて「シルバー」評価を3年連続で獲得いたしました。

当第3四半期累計期間の業績の詳細は次のとおりです。2023年11月10日（金）午後2時30分より開催の決算説明会の資料を当社ウェブサイト（<https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php>）に掲載しておりますので、決算および今後の見通しの詳細は、そちらをご覧ください。決算説明会のライブおよびオンデマンド配信も当社ウェブサイトにて行っております。

業績の概要

第3四半期累計期間（1月1日～9月30日）

	（単位：百万円、販売数量を除く）		
	2022年	2023年	増減率 (%)
売上収益	612,321	663,825	8.4
販売数量（百万ケース）	366	379	4
売上総利益	267,317	294,595	10.2
販売費及び一般管理費	278,322	287,961	3.5
その他の収益（経常的に発生した収益）	694	534	△23.0
その他の費用（経常的に発生した費用）	942	1,302	38.2
持分法による投資利益	57	1	△98.7
事業利益（△は損失）	△11,196	5,867	—
その他の収益（非経常的に発生した収益）	7,438	2,177	△70.7
その他の費用（非経常的に発生した費用）	3,295	1,923	△41.6
営業利益（△は損失）	△7,053	6,121	—
親会社の所有者に帰属する四半期利益（△は損失）	△5,194	3,862	—

(参考) 第3四半期 (7月1日～9月30日)

	(単位: 百万円、販売数量を除く)		
	2022年	2023年	増減率 (%)
売上収益	236,373	259,715	9.9
飲料事業 販売数量 (百万ケース)	142	149	5
売上総利益	104,179	117,799	13.1
販売費及び一般管理費	97,047	104,748	7.9
その他の収益 (経常的に発生した収益)	173	170	△1.9
その他の費用 (経常的に発生した費用)	276	591	114.2
持分法による投資利益 (△は損失)	△4	1	—
事業利益	7,025	12,630	79.8
その他の収益 (非経常的に発生した収益)	780	519	△33.5
その他の費用 (非経常的に発生した費用)	426	499	17.1
営業利益	7,379	12,650	71.4
親会社の所有者に帰属する四半期利益	4,705	7,808	65.9

* 事業利益 (△は損失) は、事業の経常的な業績をはかるための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

* 販売数量について、一部製品の集計範囲および区分等の変更にともない、2022年の実績値を遡って修正しております。

連結売上収益は、663,825百万円 (前年同期と比べ51,504百万円、8.4%増) となりました。価格改定による需要へのマイナス影響があったものの、人出回復や猛暑等により増加する需要を取り込むべく、新製品の展開や効率的かつ効果的なマーケティング活動の実施、カスタマーエンゲージメントの強化などに取り組んだことにより、販売数量は前年同期比4%の増加となりました。また、前年より実施している一連の価格改定の効果は順調に発現しており、ケース当たり納価が改善し、売上収益の増加に貢献いたしました。

連結事業利益は、前年同期と比べ17,063百万円増加し、5,867百万円 (前年同期は11,196百万円の損失) となりました。販売数量成長やケース当たり納価改善等のトップライン成長による利益貢献に加え、費用対効果を重視したマーケティング活動による販促費の減少、供給ネットワーク改善による物流コストの低減などにより、原材料・資材・エネルギー価格の高騰や円安などの外部要因によるコスト増加等の影響が続くなか、収益性の大幅な改善を実現いたしました。

連結営業利益は、前年同期と比べ13,174百万円増加し、6,121百万円 (前年同期は7,053百万円の損失) となりました。これは、主に、事業利益が前年同期と比べ増加した一方で、前年同期に計上した有形固定資産売却益の反動によりその他の収益 (非経常) が減少したことによるものです。なお、当第3四半期累計期間のその他の収益 (非経常) には、バランスシートの最適化を進める過程で計上した有形固定資産売却益2,150百万円などが含まれております。また、その他の費用 (非経常) には、抜本的な変革の実行に係る事業構造改善費用1,641百万円などが含まれております。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、営業利益が前年同期と比べ増加したことなどから、前年同期と比べ9,055百万円増加し、3,862百万円 (前年同期は5,194百万円の損失) となりました。

<販売数量動向 (増減率は前年同期比) >

当第3四半期累計期間の販売数量は、4%増となりました。特に、当第3四半期は、最需要期において人出回復や猛暑等を背景にこれまでの取り組みの効果が大きく発現し、数量は5%増となり、累計の数量を押し上げました。また、価格改定の効果として、ケース当たり納価は全チャネルで前年同期を2桁円以上上回る改善となりました。

チャネル別では、スーパーマーケットは、人出回復や猛暑による需要増加の機会を捉えたキャンペーン実施や製品展開に努めたものの、前年10月に実施した小型PETボトル製品の価格改定による数量減少が響き、当第3四半期累計期間の数量は2%減となりました。当第3四半期においては、最需要期におけるマーケティング活動の効果が価格改定による数量減少影響を相殺し、数量は前年同期並みとなりました。ドラッグストア・量販店では、価格改定

による影響が継続したものの、大型PETボトル製品の数量が前年同期比プラスに転じたことなどから、累計で5%増となりました。ベンディングでは、小型PETボトル製品や缶製品の価格改定による数量減少影響を受けるなか、これまで構築してきたシェア基盤やスマホアプリ「Coke ON」でのキャンペーン等の実施が、人出回復により増加する需要の取り込みに貢献し、数量は前年同期並みとなりました。また、ベンディングのケース当たり納価は、価格改定により前年同期と比べ大きく改善いたしました。コンビニエンスストアでは、厳しい競争環境が継続したものの、主力製品のお得意さま店舗への導入拡大やカスタマーエンゲージメントの強化など、売場獲得に向けた活動の効果が表れてきていることに加え、猛暑の追い風もあり、当第3四半期の数量は13%増となり、累計では4%増となりました。リテール・フードでは、飲食店や娯楽施設等における人出の回復等により、11%増となりました。オンラインでは、競争環境の厳しさがみられるなか、品揃えの強化やオンラインカスタマーと連携した効果的なプロモーションの実施などが奏功し、数量は11%増となりました。

清涼飲料の製品カテゴリー別では、炭酸は、人出回復により飲食店や自動販売機等で「コカ・コーラ」を中心に数量が増加したことや、リニューアルした「スプライト」等の貢献により、4%増となりました。茶系は、発売以降、売上を伸ばし続けている「やかんの麦茶 from 爽健美茶」や猛暑需要による貢献があったものの、価格改定による小型PETボトル製品の数量減少が響き、前年同期並みとなりました。コーヒーは、「ジョージア」のブランド刷新にともない発売した「ジョージア THE ブラック」等の新製品や、家庭内需要の獲得に向け展開している中型PETボトル製品等が貢献し、価格改定による数量減少影響を受けるなかでも、2%増となりました。スポーツは、新製品「アクエリアス NEWATER（ニューウォーター）」の貢献があったものの、価格改定による数量減少が響き、4%減となりました。水は、猛暑による需要増加に加え、前年にボトルリニューアルを実施した「い・ろ・は・す 天然水」や、「い・ろ・は・す もも」等の貢献により、16%増となりました。

アルコールカテゴリーは、新製品の「ジャックダニエル&コカ・コーラ」や「檸檬堂 すっきりレモン」等の貢献があったものの、家飲み需要の一巡もあり15%減となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

総資産は、845,609百万円となり、前連結会計年度末（以下「前期末」）と比べ18,872百万円増加しました。これは主に、最需要期の影響により「営業債権及びその他の債権」が増加した一方、バランスシートの最適化を進めたことにより「有形固定資産」が減少したことによるものです。

負債合計は、372,953百万円となり、前期末と比べ22,575百万円増加しました。これは主に、「営業債務及びその他の債務」が増加したことによるものです。

資本合計は、472,656百万円となり、前期末と比べ3,703百万円減少しました。これは主に、四半期利益が計上された一方、配当金の支払いにより「利益剰余金」が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間におきまして、人出回復や経済活動活性化、猛暑等を背景に需要増加の機会を捉えた営業活動が奏功し、販売数量が想定以上に伸長し、当初想定以上の増収増益となりました。また、コスト削減の取り組みの効果は前倒して発現しており、原材料・資材・エネルギー価格の高騰等の影響は当初想定よりも抑制される見込みです。これらの状況を勘案し、2023年2月9日公表の通期業績予想を上方修正いたしました。詳細につきましては、本日発表の「2023年12月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	84,074	82,748
営業債権及びその他の債権	103,346	136,261
棚卸資産	71,051	72,816
その他の金融資産	542	736
その他の流動資産	13,108	10,692
流動資産合計	272,122	303,253
非流動資産		
有形固定資産	425,009	413,911
使用権資産	21,841	22,381
無形資産	65,865	64,137
持分法で会計処理されている投資	322	317
その他の金融資産	15,888	14,737
繰延税金資産	20,581	21,947
その他の非流動資産	5,110	4,924
非流動資産合計	554,615	542,356
資産合計	826,737	845,609

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	108,254	122,828
社債及び借入金	1,000	40,972
リース負債	5,122	5,080
その他の金融負債	654	810
未払法人所得税	1,272	1,958
その他の流動負債	20,339	26,272
流動負債合計	136,641	197,920
非流動負債		
社債及び借入金	155,701	114,789
リース負債	18,146	18,994
その他の金融負債	8	115
退職給付に係る負債	17,817	19,351
引当金	1,761	1,753
繰延税金負債	17,157	16,836
その他の非流動負債	3,147	3,194
非流動負債合計	213,737	175,033
負債合計	350,378	372,953
資本		
資本金	15,232	15,232
資本剰余金	451,264	451,405
利益剰余金	94,209	89,874
自己株式	△85,667	△85,369
その他の包括利益累計額	1,177	1,343
親会社の所有者に帰属する持分合計	476,216	472,485
非支配持分	142	170
資本合計	476,358	472,656
負債及び資本合計	826,737	845,609

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上収益	612,321	663,825
売上原価	345,004	369,229
売上総利益	267,317	294,595
販売費及び一般管理費	278,322	287,961
その他の収益	8,132	2,711
その他の費用	4,237	3,225
持分法による投資利益	57	1
営業利益 (△は損失)	△7,053	6,121
金融収益	179	361
金融費用	1,073	535
税引前四半期利益 (△は損失)	△7,947	5,947
法人所得税費用	△2,756	2,057
四半期利益 (△は損失)	△5,191	3,890
四半期利益 (△は損失) の帰属：		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失)	△5,194	3,862
非支配持分	3	28
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	△28.96	21.53
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	—	21.38

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期利益 (△は損失)	△5,191	3,890
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	329	1,155
小計	329	1,155
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	1,715	40
小計	1,715	40
その他の包括利益合計	2,044	1,195
四半期包括利益	△3,147	5,085
四半期包括利益の帰属：		
親会社の所有者	△3,150	5,057
非支配持分	3	28

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配持分	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の包括利益累計額			
2022年1月1日残高	15,232	450,832	109,273	△85,661	2,644	492,320	131	492,451
四半期包括利益								
四半期利益(△は損失)	—	—	△5,194	—	—	△5,194	3	△5,191
その他の包括利益	—	—	—	—	2,044	2,044	—	2,044
四半期包括利益合計	—	—	△5,194	—	2,044	△3,150	3	△3,147
所有者との取引額等								
剰余金の配当	—	—	△8,967	—	—	△8,967	—	△8,967
自己株式の取得	—	—	—	△4	—	△4	—	△4
自己株式の処分	—	△0	—	0	—	0	—	0
株式に基づく報酬取引	—	371	—	—	—	371	—	371
その他の包括利益累計額から利益剰余金への振替	—	—	△5	—	5	—	—	—
その他の包括利益累計額から非金融資産への振替	—	—	—	—	△2,010	△2,010	—	△2,010
所有者との取引額等合計	—	371	△8,972	△4	△2,005	△10,611	—	△10,611
2022年9月30日残高	15,232	451,203	95,107	△85,665	2,683	478,559	134	478,694

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配持分	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の包括利益累計額			
2023年1月1日残高	15,232	451,264	94,209	△85,667	1,177	476,216	142	476,358
四半期包括利益								
四半期利益	—	—	3,862	—	—	3,862	28	3,890
その他の包括利益	—	—	—	—	1,195	1,195	—	1,195
四半期包括利益合計	—	—	3,862	—	1,195	5,057	28	5,085
所有者との取引額等								
剰余金の配当	—	—	△9,046	—	—	△9,046	—	△9,046
自己株式の取得	—	—	—	△4	—	△4	—	△4
自己株式の処分	—	△140	—	301	—	161	—	161
株式に基づく報酬取引	—	281	—	—	—	281	—	281
その他の包括利益累計額から利益剰余金への振替	—	—	849	—	△849	—	—	—
その他の包括利益累計額から非金融資産への振替	—	—	—	—	△180	△180	—	△180
所有者との取引額等合計	—	141	△8,197	298	△1,029	△8,787	—	△8,787
2023年9月30日残高	15,232	451,405	89,874	△85,369	1,343	472,485	170	472,656

(4) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループは「飲料事業」の単一セグメントのため、報告セグメント別の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。